# 神保美佳のメモ★ランダム ——VOL.25

## 「ファストファッション」を楽しむ

MEMO★RANDOM

じんぼう・みか
法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。
取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」（バジリコ、07年）

20年に一度と言われた大寒波がようやく過ぎ去り、春がやって来ました。昨年の今頃は、大震災と原発事故で毎日不安な日々を過ごしていたものの、一年が経過したということもあって、季節を感じたりすることも出来るようになってきました。

少し暖かくなって来たし、気分が明るくなるような洋服が欲しいなノ。そんなことを考えていた矢先、銀座に巨大ファストファッションブランドの旗艦店舗がオープンしたというので、行ってみました。開店から数日経ってからの訪問だったのですが、それでも入店するまで10分程並び、エスカレーターで一階上がるのだけで一苦労。しかしレジは比較的空いていたので、半分「物見遊山」が目的の人も多いのかもしれません。

それにしても銀座といえば、高級でなかなか近寄り難い「大人の街」というイメージがありましたが、今や手軽な値段のファッション店舗が軒を連ねるようになって、若い女性が沢山訪れる街に変貌を遂げています。こうした現象は、最近様々なメディアなどで盛んに取り上げるようになったので、ご存知の方も多いかと思います。事実、この日も銀座通りを歩いていると、以前は人通りが少なくなっていた新橋寄り（ファストファッションのビルが多い方）に、圧倒的に人が集まっているのがはっきり分かるほどでした。

思えば私が「ファッション」というものに興味を持ち始めた高校生から大学生の頃は、「デザイナーズブランド」ブームが到来し、原宿などで個性的なデザインの服を探して着るのが、最先端のオシャレでした。洋服の販売員は「ハウスマヌカン」と呼ばれ、彼女たちを揶揄した曲がヒットしたりもしました。

当時は私も、お金を貯めて一枚3万円もするスカートを買ったり、胸に大きくブランドロゴがプリントされた限定品のトレーナーなどを着込んで悦に入っていたものですが、30年程経過した今では1000～2000円出せば、割とオシャレな服が買えるようになったのですから、いい時代になったと思いますね。

ただし、ファストファッションは大量生産され、消費されるという部分が〆諸刃の剣ℳでもあります。すなわち、安く手軽に入手できる反面、同じものを着ている人に遭遇する可能性が非常に高いのです。少なくとも私にとって、そんな場面での気まずさといったら…かなりのダメージ。

そんなわけなので、私の場合ファストファッションには個性ではなく、着回しや実用性を求めてオーソドックスなものを中心に買い、他のブランドのアイテムと組み合わせて着用しています。何だか、せっかく安いだけでなくオシャレにもなって来たのに、もったいないような気もしますが、たとえ同じものを着ている人と会っても「バレないように気遣いつつ、オシャレも気軽に楽しめる」のが、ファストファッションの好きなところでもあるのです。